

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	井上 一男	生徒指導主事	元谷 源
取組事例名	『プロアクティブ（未然防止）生徒指導の充実』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
プロアクティブ（未然防止）生徒指導を充実させることで、相手を思いやる気持ちを高めたり、自己存在感を感じたりと、生徒の心を耕すことにつながる。また、リーダーを育成することで、主体的に学校行事を計画・運営することにつながり、生徒の自己指導能力を育成することができると考える。	相手を思いやる心を育て、共感的な人間関係の形成。リーダーの育成、フォロワーシップをもつこと、仲間と目標に向けて頑張る取組を通して、自治ができる生徒。夢や志を抱き、自ら学び、考え、判断し、主体的に行動できる生徒、周りから応援されるような生徒を育てる。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫										
(1) 生徒主体での学校行事の計画や運営 学校行事で生徒が目指すべき姿の共通理解を図り、生徒が主体的に活躍出来る場面を事前に計画し、設定する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校行事</th><th>実践のポイント</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体育大会</td><td> - リーダーを育成するための視点を示したり、異学年交流を意図的に設定したりする。 - 生徒主体をサポートし、実現するための計画、種目の精選、ルール等を設定する。 </td></tr> <tr> <td>壮行式</td><td> - 各種大会ごとに設定し、目標の明確化、共通理解を図る。 - 自己肯定感を高め、チーム栗原という認識を高める。 </td></tr> <tr> <td>全校集会</td><td> - 肯定的な評価や、学校の課題を全生徒で考え、共有する。 </td></tr> <tr> <td>文化祭</td><td> - 成功に向け、短期・長期の目標をたて、各クラスで練習を行う。 - リーダー活躍の場の意図的な設定。 </td></tr> </tbody> </table> (2) 教職員との共感的人間関係の構築 - 教職員も各行事に、生徒ともに全力で取り組み関わる（体育大会種目参加 文化祭教職員合唱・ステージ協力） - 生徒へのタイムリーな肯定的な評価を行う。	学校行事	実践のポイント	体育大会	- リーダーを育成するための視点を示したり、異学年交流を意図的に設定したりする。 - 生徒主体をサポートし、実現するための計画、種目の精選、ルール等を設定する。	壮行式	- 各種大会ごとに設定し、目標の明確化、共通理解を図る。 - 自己肯定感を高め、チーム栗原という認識を高める。	全校集会	肯定的な評価や、学校の課題を全生徒で考え、共有する。	文化祭	- 成功に向け、短期・長期の目標をたて、各クラスで練習を行う。 - リーダー活躍の場の意図的な設定。	生徒にめあてをもたせるために 【教職員・生徒共通目標の設定】 - 目標とされる学校、応援される生徒という目指すべき姿を設定する。 【生徒指導通信発行】 - 週1回発行し、生徒に心の成長や、目標設定に役立つ内容を記載する。 生徒の意欲を高めるために 【教職員が全力で生徒と関わる】 - 各種行事での、教職員の生徒との関わりを強化する。 - 生徒も全力 教職員も全力 - プラスの言葉、声かけの充実 生徒の頑張りを認め、価値付けるために 【見つけた〇〇が素晴らしい】 - 生徒の頑張っているところ、素晴らしい姿を教職員が見つけ、タイムリーな肯定的な評価を実施する。 - 生徒の自己有用感の向上につながる。
学校行事	実践のポイント										
体育大会	- リーダーを育成するための視点を示したり、異学年交流を意図的に設定したりする。 - 生徒主体をサポートし、実現するための計画、種目の精選、ルール等を設定する。										
壮行式	- 各種大会ごとに設定し、目標の明確化、共通理解を図る。 - 自己肯定感を高め、チーム栗原という認識を高める。										
全校集会	肯定的な評価や、学校の課題を全生徒で考え、共有する。										
文化祭	- 成功に向け、短期・長期の目標をたて、各クラスで練習を行う。 - リーダー活躍の場の意図的な設定。										



3 成果と課題

- 生徒アンケート項目『栗原中学校には自慢できることがある』では、77.7%の肯定的回答があり、前年より5.5%向上した。生徒主体で、各行事を成功させたことがこの数値につながったと考えている。
- 『栗原中学校には信頼できる教員がいる』では、88%の肯定的回答があり、前年より、5.2%向上した。全教職員で生徒に関わり、肯定的な評価を継続したことが数値につながったと考えている。
- 『自分には良いところがある』という項目が、前年と変化が見られなかったところから、集団における自己存在感を感じる取組の充実、達成感を感じることが出来る活動の充実を図る必要がある。